



学校だより

あいかわ

鈴鹿市立合川小学校

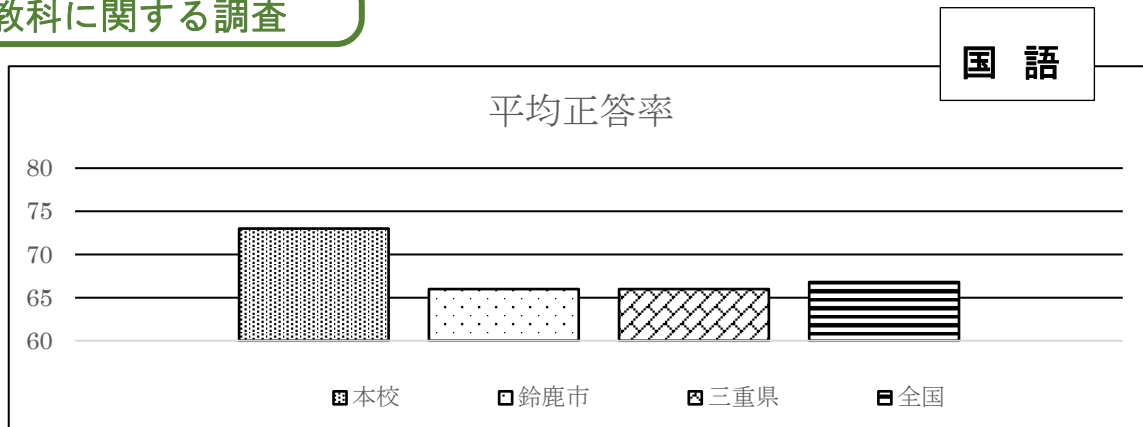
No. 12

令和7年9月9日

## 令和7年度 全国学力・学習状況調査の結果について

4月17日に6年生を対象として、令和7年度の全国学力・学習状況調査を実施いたしました。その結果及び結果を踏まえた今後の取組についてお知らせします。なお、今回の調査により測定できるのは学力の一部分であり、学力全般を表すものではありません。

### 教科に関する調査

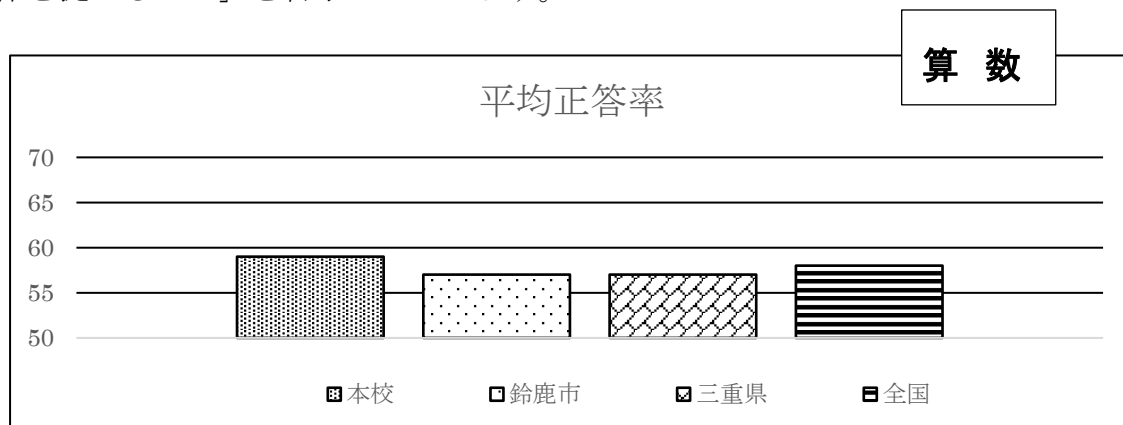


#### 【 強み 】

評価の観点では「知識・技能」「思考・判断・表現」とも、全国値より高い結果でした。「知識・技能」では、「言葉の特徴や使い方に関する事項」が、「思考・判断・表現」では、「話すこと・聞くこと」「書くこと」が全国値より高くなっています。全体的に学力が安定しており、評価の観点や問題形式による得意、不得意や、理解力に大きな差は見られませんでした。すべての問題で無回答がなく、どの問題にもしっかりと取り組めています。

#### 【 弱み 】

「思考・判断・表現」の「読むこと」の正答率が全国値より低かったです。具体的には、「目的に応じて文章と図表などを結び付け、必要な情報を見つけること」に課題がありました。また、「時間的な順序や事柄の順序を考えながら、内容の大体を捉えること」を苦手としています。

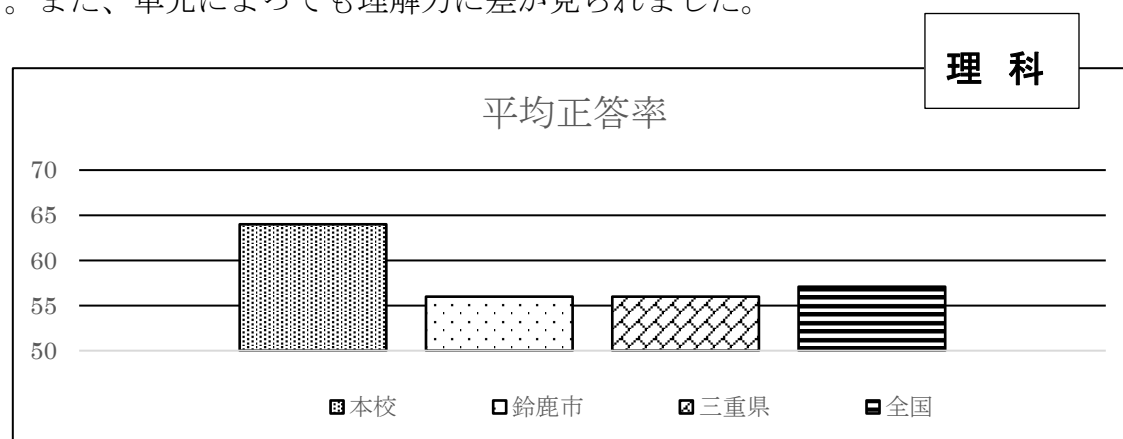


### 【 強み 】

評価の観点では「思考・判断・表現」が全国値より高い結果でした。領域別では「数と計算」「図形」「データの活用」が全国値より高かったです。全体的に記述や思考を伴う問題は理解できていました。

### 【 弱み 】

評価の観点では「知識・技能」が全国値より低く、領域別では「測定」が全国値より低かったです。記述や思考力を伴う問題はできていますが、基礎的・基本的な問題の誤答が多くみられました。具体的には、「台形の性質」「小数の加法」「分数」「はかりの読み方」「割合」を苦手としており、苦手な問題の無回答率が高くなっています。また、単元によっても理解力に差が見られました。



### 【 強み 】

評価の観点では「知識・技能」「思考・判断・表現」とも、全国値より高い結果でした。すべての問題に対して無回答はなく、正答率の低い問題でも粘り強く考えることができています。

### 【 弱み 】

記述や思考を伴う問題はできていますが、基礎的・基本的な知識に弱さが見られました。また、単元によって理解力に差があります。具体的には、「金属の性質」「電気の回路」「花の作りや受粉」「温度による水の変化」に課題が見られました。

**知識・技能とは** → 各教科の必要な知識を理解し、学んだ内容を活用できる力。

**思考・判断・表現とは** → 習得した知識や技能を活用して課題に取り組み、自らの考えを判断し表現する能力。

## 調査結果を踏まえた取組

- ・日頃から、自分の考えとその根拠や理由を書かせることを積み重ね、書いた内容について確認したり振り返ったりさせる。また、自分の考えを説明する機会を意図的に増やしていく。
- ・ICT 機器を使った授業を日常的に行い、「課題の設定・情報収集・整理分析・まとめ」の学習の流れを大切にする。また、授業の振り返りをしっかりと行う。
- ・国語では、「自分の考えをもち、伝える力」を高めるために、「対話の中で自分の思いや考えをもつ」ことや、「自ら問いを持ち、思考を広げ深め合う」ことを大切に

た授業実践を行う。

- ・読解力向上のため、すべての学年で鈴鹿市教育委員会が提供する「読む書くワークシート」「読むYOMUワークシート」を計画的に実施し、答え合わせや解説をていねいに行う。
- ・算数では、図形や小数、分数、割合の特徴や性質の理解を深められるよう、各学年で系統的に指導する。また、ICT機器を活用したり繰り返し演習問題を行ったりして、基礎的・基本的な力の定着を図る。
- ・理科では、実験をする際に目的や課題を明確にし、根拠をもとにした予想や仮説を立てさせる。実験の結果について、考察やまとめをしっかりと行わせる。
- ・基礎的、基本的な知識が定着するよう、授業の中で繰り返し学習内容の確認を行う。

## 児童質問紙調査

◎、○全国値より高い。 △、×全国値より低い。

| 家庭学習                                             | 本校と全国との差 |
|--------------------------------------------------|----------|
| 学校の授業時間以外に、普段(平日)、1日あたり1時間以上、勉強をしている。(塾の時間を含む)   | ×        |
| 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日あたり1時間以上勉強をしている。(塾の時間を含む)    | ×        |
| 読 書                                              | 本校と全国との差 |
| 学校の授業以外に、普段(平日)、1日当たり30分以上読書をしている。               | △        |
| 非認知能力                                            | 本校と全国との差 |
| 分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができている。 | ○        |
| 学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる。   | △        |
| 自分には、よいところがあると思う。                                | ◎        |
| 人が困っているときは、進んで助ける。                               | ◎        |

本校では家庭学習の時間(学年×15分)の定着を目指していますが、平日、土日とも、1日あたりの学習時間は全国値とくらべて低い結果となりました。日常的な家庭学習時間の定着が課題です。

非認知能力については、「やりぬく力」「自己肯定感」「社会性」とも全国値を上回っていました。ここ数年課題であった「自己肯定感の低さ」についても、以前より大きく改善しています。しかし「自制心」については全国値より低い結果となりました。

## 調査結果を踏まえた取組

- ・家庭学習は、「学年×15分」をどの学年でも定着させられるように取り組む。また、学年に応じた自主学習の推進を図る。(ノーメディア強化週間では、どの学年も家庭学習の平均が「学年×15分」を越えていました。ご家庭でも日常的な学習時間の確保にご協力をお願いします。)
- ・読書推進の取組や図書委員会の活動を充実させ、各学年の読書量を増やす。
- ・授業や学校行事において、目標設定と振り返りを大切にする。また、学習や行事にやりがいを持たせ、成功体験を積み重ねることで、非認知能力の向上をめざした取組を継続して行っていく。